

モニタリング分析【令和5年6月8日 公表】

	モニタリング項目		今週	前週
	※①は7日間の合計、②③は7日間移動平均で算出 ※⑤は上位3つの変異株の割合を抽出		(令和5年6月8日 公表)	(令和5年6月1日 公表)
感染動向	① 定点医療機関当たり患者報告数 【定点医療機関からの患者報告数÷定点医療機関数】		5.29人/定点 (第22週 (5/29-6/4))	3.96人/定点 (第21週 (5/22-5/28))
	② #7119(※1)における発熱等相談件数 【7日間移動平均】		84.7件 (6/7)	85.9件 (5/31)
医療提供体制 への負荷	③ 救急医療の東京ルールの適用件数(※2) 【7日間移動平均】		82.3件 (6/7)	79.3件 (5/31)
	④ 入院患者数 【入院患者の総数】		983人 (6/5)	900人 (5/29)
変異株監視	⑤ 病原体サーベイランス (ゲノム解析) 【都内検体の直近のゲノム解析結果】	XBB.1.16	37.0% (5/15-5/21)	27.0% (5/8-5/14)
		XBB.1.5	21.7% (5/15-5/21)	26.0% (5/8-5/14)
		XBB.1.9.1	18.5% (5/15-5/21)	21.0% (5/8-5/14)

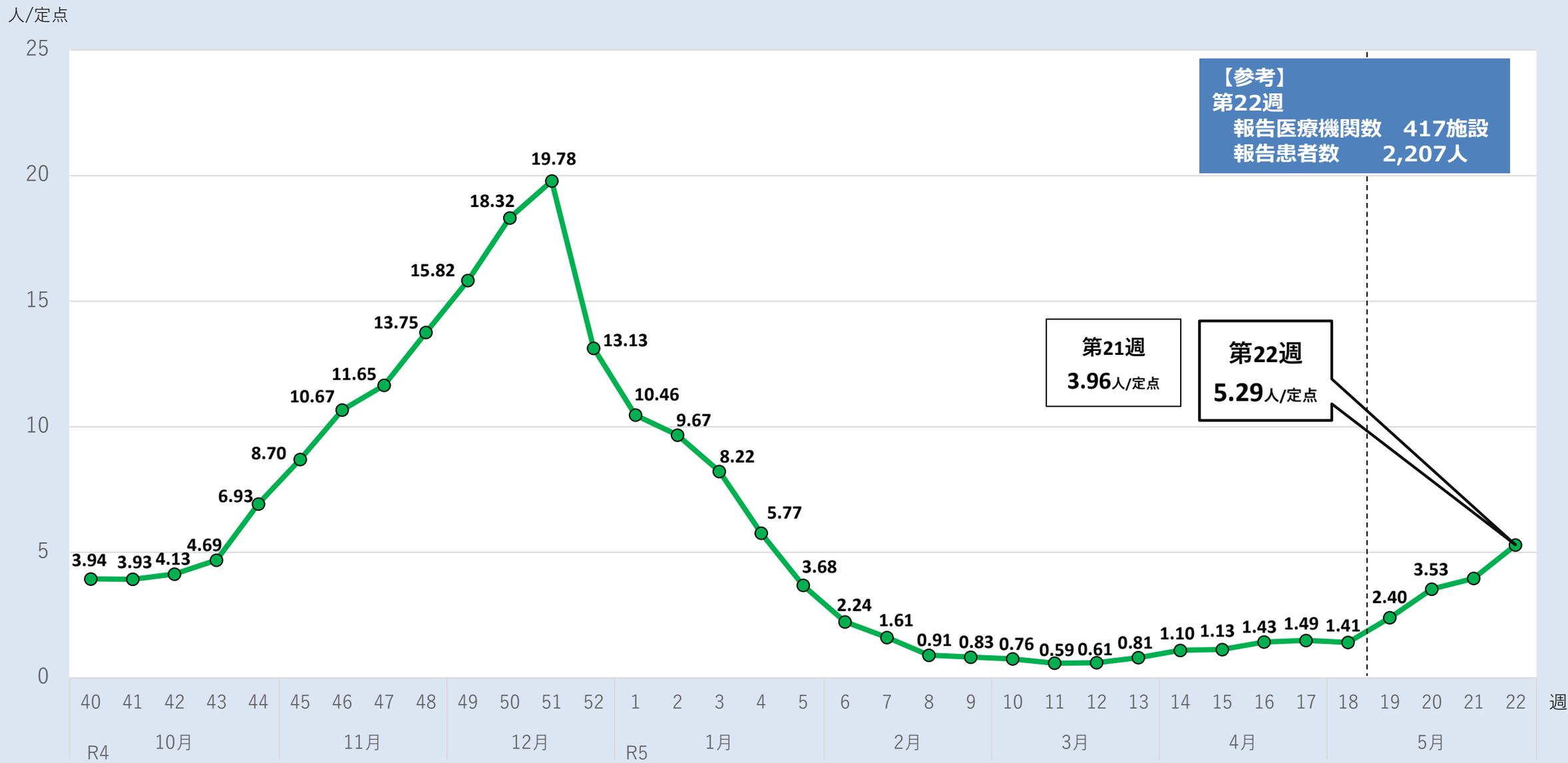
専門家による分析
<p>■ 定点医療機関当たり患者報告数は、前週の3.96人/定点から、今週は5.29人/定点と、4週間連続して増加した。</p> <p>■ 今週先週比は134%であり、感染拡大が続いている。今後の動向に十分な注意が必要である。</p> <p>■ 前週との比較で、発熱等相談件数及び東京ルールの適用件数はほぼ横ばいである。</p> <p>■ 入院患者数は、前週の900人から、今週は983人となった。現時点では医療提供体制への大きな負荷は見られないが、増加傾向が続いており、引き続き状況を注視する必要がある。</p> <p>■ 都が実施しているゲノム解析によると、免疫逃避により感染しやすくなっている「XBB.1.16」等のXBB系統が、流行の主体となっている。新たな変異株の出現や、その動向に警戒が必要である。</p>

【参考】 VRSデータによる都民のワクチン接種状況
令和5年春開始接種（令和5年5月8日開始） 高齢者（65歳以上）

25.7%
(6/4)

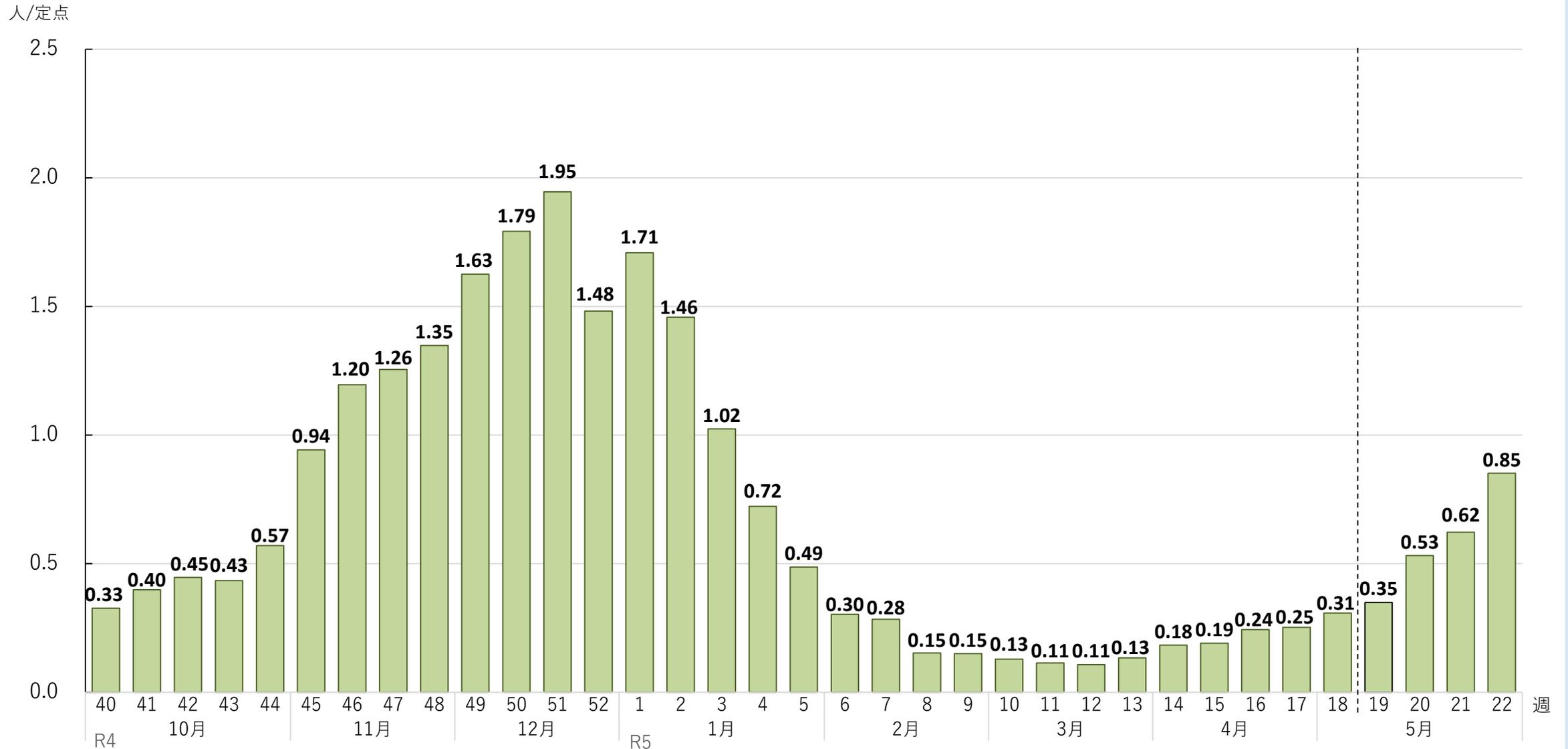
※1 東京消防庁救急相談センター。急病やけがの際に、緊急受診の必要性や診察可能な医療機関をアドバイスする電話相談窓口
※2 救急隊による5医療機関への受入要請又は選定開始から20分以上経過しても搬送先が決定しない事案

①-1 定点医療機関当たり患者報告数



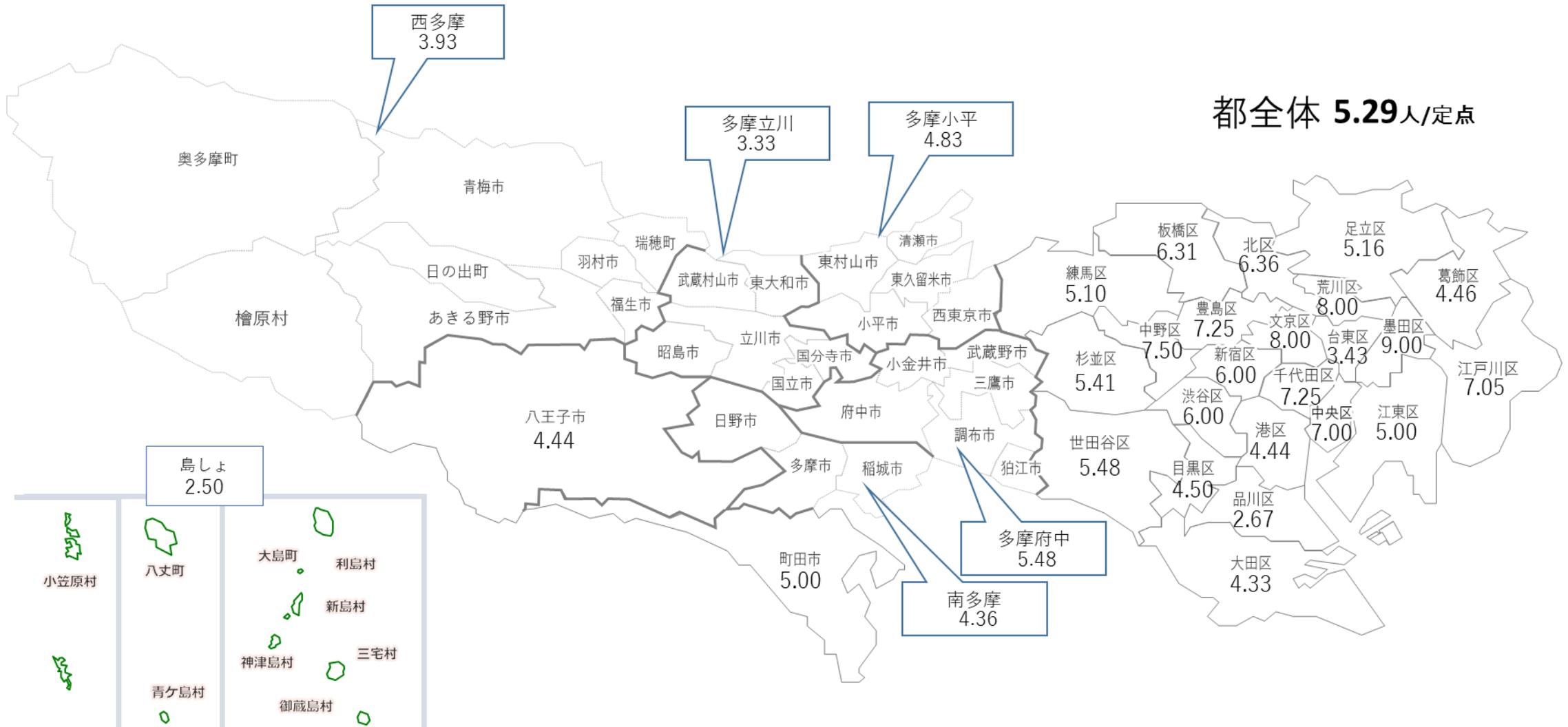
(注) 医療機関からの報告に基づき、遡って修正が加わる可能性がある

①-2 60歳以上の定点医療機関当たりの患者報告数



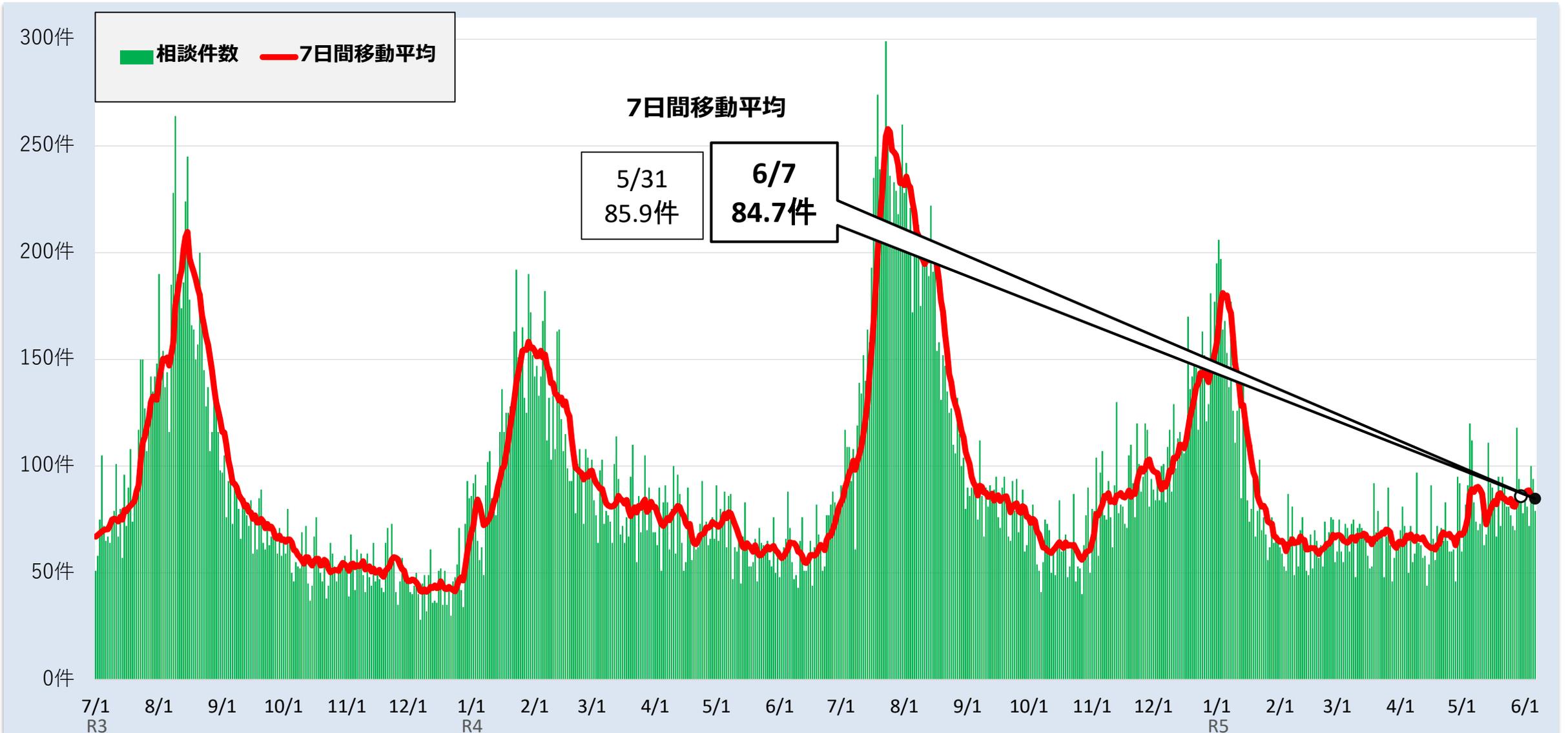
(注) 医療機関からの報告に基づき、遡って修正が加わる可能性がある

①-3 定点医療機関当たり患者報告数(保健所区域別、第22週 (5/29~6/4))



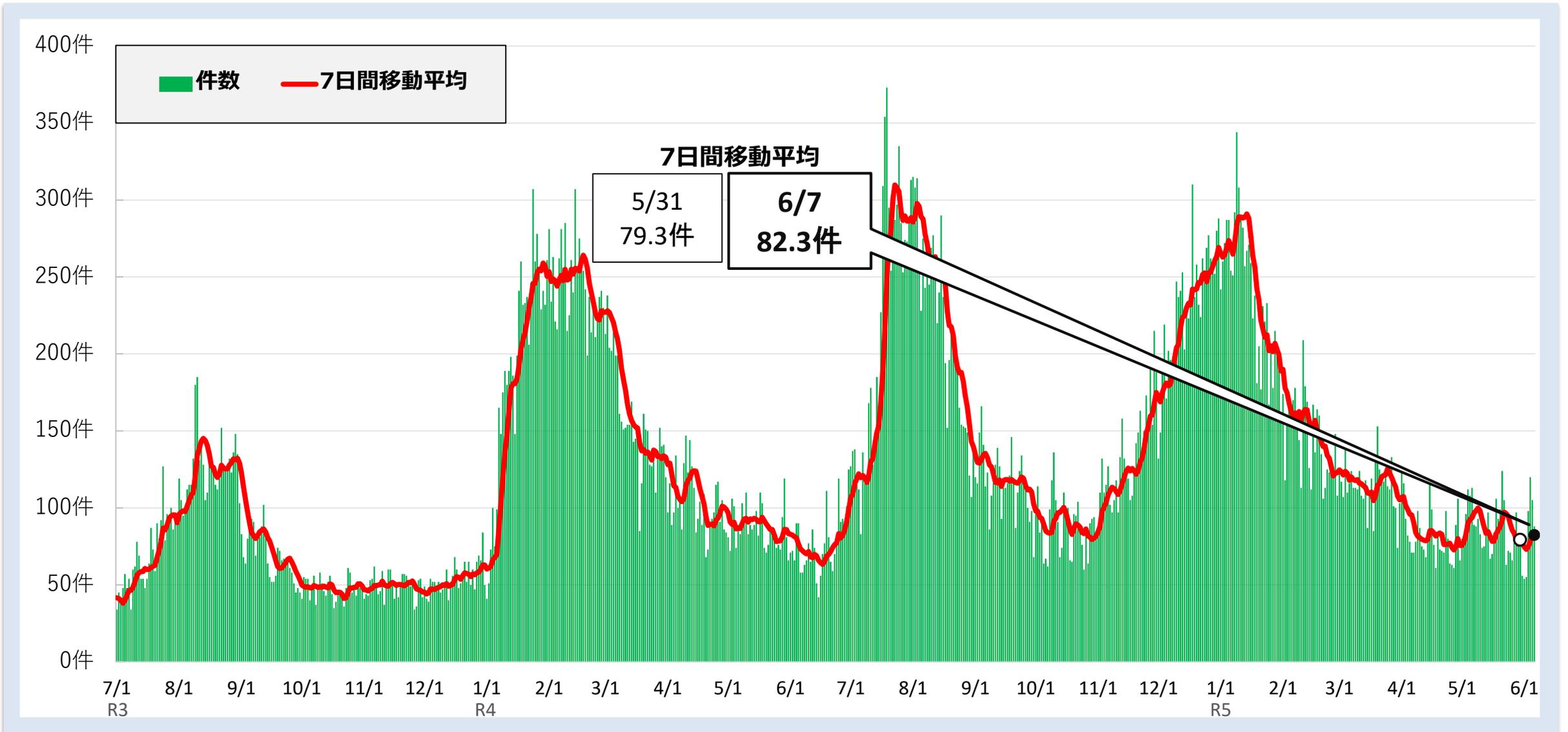
(注) 各保健所の定点医療機関から報告のあった患者数/各保健所の報告のあった定点医療機関数

② #7119における発熱等相談件数



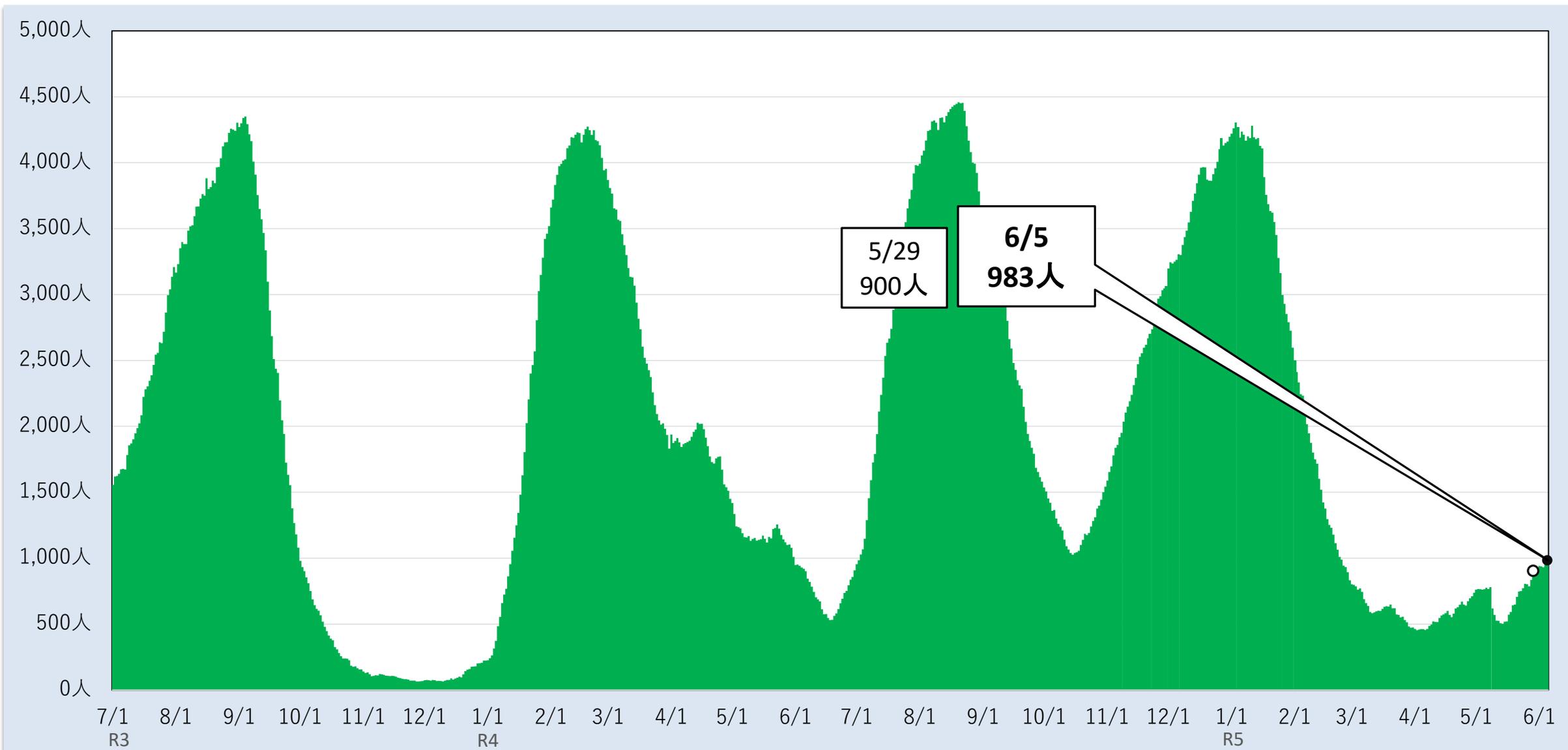
(注) 曜日などによる件数のばらつきにより、日々の結果が変動するため、こうしたばらつきを平準化し全体の傾向を見る趣旨から、過去7日間の移動平均値を相談件数として算出

③ 救急医療の東京ルールの適用件数



(注) 曜日などによる件数のばらつきにより、日々の結果が変動するため、こうしたばらつきを平準化し全体の傾向を見る趣旨から、過去7日間の移動平均値を適用件数として算出

④ 入院患者数



(注) 医療機関からの報告に基づき、遡って修正が加わる可能性がある

